

◆ 博物館だより

◇2023年度イケフェスに参加

大阪市の「生きた建築ミュージアム フェスティバル大阪(イケフェス大阪)」に協力して10月19日にキャンパスツアーを実施しました。30名の参加があり、環境都市工学部の橋寺知子准教授に関西大学一高・一中エリアにある村野藤吾が設計した建物をご案内いただきました。

◇「博物館実習展」を11月12日から17日まで開催しました。この展示会は、企画から展示まで学生自らが主体的に取り組みます。今年度は48名の実習生が「十二支の変遷」「装丁維新-綴じ方の歴史-」「江戸髪結文化～髪と歴史をほどく～」 「お～盛んやね、大阪！ 大大阪展」「新旧万博から見る大阪史」の5班に分かれ、博物館学課程の集大成として展示を構成しました。また、ミニテーマ展「復元 日本中世の天台談義所—成菩提院聖教から—」と特別展示「昭和のビーズバッグ—流行とデザイン—」を同時開催し、会期中に632名の方にご覧いただきました。



◇関西大学博物館冬季展を1月15日から2月29日まで開催しました。

「関西大学博物館資料の旧蔵者たち—好古から考古学へ—」では、18世紀に始まる本草学の第一人者である小野蘭山が収集した「小野蘭山愛蔵石類」を武田科学振興財団杏雨書屋から借用し、はじめて外部で展示する機会となりました。

「本山コレクションにみる縄文時代の貝塚」では、当館が所蔵する登録有形文化財「本山コレクション」の貝塚出土資料の中から主要なものを展示し、2023年まで4年にわたる「本山コレクション貝塚研究班」の整理・調査・研究の成果を報告しました。

「関西大学博物館新収蔵資料展」では、2022年度に寄贈いただきました「本山幸彦氏旧蔵本山彦一関係資料」と「近世近代貨幣コレクション」の2件のコレクションを紹介しました。

会期中には754名の方にご覧いただきました。



2024年は、関西大学博物館が1994年に開設されてから30年、末永雅雄が1954年に考古学資料室を設けてから70年となります。2024年度春季企画展では、創設100周年を迎える文学部と連携して連携企画展「花開く大阪の文化」(会期：4月7日(日)～5月31日(金))を開催します。ご期待ください。

．．． 編集後記 ．．．

表紙の「雲龍小釜・雲龍風炉」は、校友で釜師の角谷與齊氏が当館のために制作し寄贈くださったものです。角谷氏は1990年に関西大学工学部を卒業し、茶道・裏千家の出入方職人となりました。

雲龍小釜・雲龍風炉は、裏千家十五代鵬雲斎大宗匠のお好みで、武野紹鷗が所持していた水差しの雲龍文を千利休が釜に写したと言われる雲龍釜のデザインに倣っています。雲龍文は、龍が雲の間を昇る様がめでたいとされる吉祥文様です。雲龍釜を乗せるための雲龍風炉は土製の風炉の形を写した金属製の風炉です。

